

## 道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知1	建設省四国地方建設局中村工事事務所編「六十年のあゆみ」(四国建設弘済会、1991年)、183頁	国道56号中村市局改 (中略)このバイパスの完成に伴い、足摺岬及び宿毛市への所要時間が短縮され、また、市街地から通過交通を排除したことにより、当地域の発展に大きく寄与することとなった。
高知14	高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」(高知県建設業協会、1998年)、791頁、793頁、794頁	国道56号土佐道路1期工事 (中略)土佐道路の1期工事完工で、遅れていた県都周辺道路整備のなかでも最大のネックとなっていた高知市西部の交通混雑が大幅に解消された。  国道56号筆山道路 (中略)これによって高知市内でも有数の渋滞箇所であった天神橋南詰の交差点を通らずに潮江方面へ抜けられるため、ドライバーのいらいらはかなり解消された。  国道56号伊与喜局改 (中略)バイパスは全長780mで、片側に2.5mの歩道のある2車線の幅員12m。高知方の伊与木川とJR中村線を跨ぐ橋は近くの熊野神社にちなんで熊野権現橋(136m)、一方は海棠(かいどう)橋(102.5m)と名づけられた。総工費17億2000万円。完成によって約350m短縮され、冠水常襲地帯が解消され見通しも良くなって地元民や通行者の悩みが解消した。
高知78	佐川町史編纂委員会編「佐川町史 下巻」(佐川町、1981年)、410頁	国道56号佐川バイパス (中略) この新バイパス開通によって、高知-松山の大動脈は北寄りに、佐川市街地を避けて素通りするようにはなったが、その反面には、日増に増加する交通量によって生じた渋滞・危険を解消して、しづかな町を取り戻すことができた。そして、町の東玄関上郷より西入口の川内ヶ谷の間には、沿道にレストラン、大型スーパーマーケットやボーリング場、モーターの類まで繁昌して、隔世の感を呈するようになった。
高知93	須崎市史編纂委員会編「須崎市史 平成26年編」(須崎市、2015年)、203頁	国道56号須崎道路 (中略) 須崎道路の開通により、かつては大渋滞が頻繁に起こっていた旧国道五六号も、バイパスの一般道路として自動車専用道路が暫定供用されるたびに交通量を減らし、全線開通によって交通量は少なくなった。

道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知151	国土交通省四国地方整備局編「一般国道56号佐賀改良(事後評価)」(平成18年度第1回事業評価監視委員会資料、2006年)、6-15頁	<p>国道56号佐賀改良の事業効果</p> <p>(1)走行性の改善 旧国道は、幅員狭小、急カーブの連続から規制速度30km/hとなっていたが、佐賀改良により、幅員も広く線形も緩やかに改善されたことから、スムーズな通行が可能となり速度規制も解消された。</p> <p>(2)渋滞損失時間の削減 佐賀改良の供用により、交通量が分散され旧国道やバイパスの走行速度が向上し、年間渋滞損失時間が大幅に削減された。</p> <p>(3)バス路線の利便性向上 佐賀改良によって、交通がバイパスに移行し、旧国道の交通量が大幅に減少したため、バスの運行が円滑に行えるようになった。</p> <p>(4)土佐佐賀駅へのアクセス向上 土佐佐賀駅へのアクセスは旧国道が利用されるため、佐賀改良によって旧国道の交通量が減少し、土佐佐賀駅へのアクセスが向上した。</p> <p>(5)高知龍馬空港へのアクセス向上 佐賀改良や周辺道路の整備により、黒潮町(旧佐賀町)～高知龍馬空港間の所要時間は20分の短縮が図られた。</p> <p>(6)須崎港へのアクセス向上 佐賀改良や周辺道路の整備により、黒潮町(旧佐賀町)～須崎港間の所要時間は6分の短縮が図られた。</p> <p>(7)農林水産品の流通の利便性向上 旧国道は、線形不良や幅員狭小で農林水産品の運送に支障をきたしていたが、佐賀改良の供用により、農林水産品の品質を保った状態で各方面への出荷が可能となった。また、災害などによる通行止めもなくなり、確実かつ時間ロスなく出荷できるようになった。</p> <p>(8)四万十市～須崎市間の所要時間の短縮 佐賀改良や周辺道路の整備により、四万十市(幡多地方生活圏)～須崎市(高幡地方生活圏)間の所要時間は9分の短縮が図られ、黒潮町(旧佐賀町)内での旅行速度も整備前後で約10km/h増加しており、スムーズな通行が行われている。</p> <p>(9)四万十市へのアクセス向上 佐賀改良の供用により、黒潮町(旧佐賀町)から四万十市間の唯一の幹線道路である国道56号が線形改良等で走行しやすくなり、四万十市へのアクセス向上に寄与している。</p>

道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知151	国土交通省四国地方整備局編「一般国道56号佐賀改良(事後評価)」(平成18年度第1回事業評価監視委員会資料、2006年)、16-25頁	<p>国道56号佐賀改良の事業効果</p> <p>(10)周辺の観光地へのアクセス向上          佐賀改良の供用(H14.3月)による県内直轄国道区間で唯一規制速度30km/h区間の解消や四国横断自動車道伊野IC～須崎東ICの供用(H14.9月)とが相まって、周辺の観光地へのアクセスが向上するとともに、平成14年以降は大勢の観光客が訪れるようになった。また、周辺のゴルフ場も近年減少傾向にある利用者数に歯止めがかかった。</p> <p>(11)歩行者・自転車の通行の安全性向上          佐賀改良の整備に伴う歩道の設置によって、歩行者・自転車の通行の快適・安全性が向上した。</p> <p>(12)救急医療施設へのアクセス向上          佐賀改良の整備により、各病院へのアクセスが向上し、二次医療施設へより早く安全に救急患者を搬送することが可能となった。また、近年増加している救急搬送にも迅速に対応することが可能となった。</p> <p>(13)事故件数の減少          佐賀改良の整備により、事故発生件数が整備前(H10～H13)平均5.5件から、整備後(H14～H16)平均旧国道0.3件、バイパス1.3件に減少するなど、安全性が向上した。</p> <p>(14)通行止めの解消          佐賀改良の整備により、バイパス区間は高い位置を通過しており、大雨時にも安心して通行できるとともに、緊急活動の支援道路としても活躍する。          旧国道区間は東南海・南海地震で津波が予測されているが、佐賀改良区間では津波の浸水の影響を受けない。震災時における国道56号の寸断が回避され、災害時にも緊急活動の支援道路として機能し、防災対策や危機管理の充実に寄与している。</p> <p>(15)CO2排出量の削減          佐賀改良の整備による交通の円滑化に伴い、1年あたりのCO2排出量が1,070t-CO2/年程度削減された。</p> <p>(16)NO2とSPMの排出量の削減          佐賀改良の整備による交通の円滑化に伴い、現道部における自動車からの二酸化窒素(NO2)排出量が82%、浮遊粒子状物質(SPM)が排出量が80%削減され、沿道住民の生活環境が向上している。</p>

## 道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知152	国土交通省四国地方整備局編「一般国道56号春野拡幅(事後評価)」(平成18年度第1回事業評価監視委員会資料、2006年)、7-15頁	<p>国道56号春野拡幅の事業効果</p> <p>(1)所要時間の短縮 春野拡幅事業により、整備区間の所要時間は9分短縮されるとともに、線形不良や歩行者・自転車道の未整備区間の解消により、快適な走行が可能となった。 春野拡幅事業により、春野交差点において発生している渋滞長が最大で2,300mから100mに短縮された。</p> <p>(2)渋滞損失時間の削減 現道における拡幅・線形改良等の効果により、旅行速度が大幅に向上し、年間走行時間が改善された。</p> <p>(3)混雑時旅行速度の向上 春野拡幅事業による交通容量の拡大により、当該区間の混雑時旅行速度は大幅に改善された。</p> <p>(4)路線バスの利便性向上 春野拡幅事業前は、当該区間における交通混雑により、路線バスの定時性が確保できなかったが、事業後は、当該区間における混雑度は1を下回り、かつ、速度も向上していることから、路線バスの利便性(定時性、安全性等)は向上した。また、4車線化された区間内のすべてのバス停留所(7箇所)において、バス停車スペースが整備されたことにより、停車によって交通混雑が生じる可能性が低減した。</p> <p>(5)朝倉駅へのアクセス向上 春野拡幅事業により、土佐市・春野町から朝倉駅への所要時間がそれぞれ8分、4分短縮されたため、アクセス性が向上した。</p> <p>(6)高速バス停留所へのアクセス向上 春野拡幅事業により、土佐市・春野町から高知大学北口停留所への所要時間がそれぞれ8分、4分短縮されたため、アクセス性が向上した。</p> <p>(7)高知龍馬空港へのアクセス向上 春野拡幅事業により、土佐市から高知龍馬空港への所要時間が21分短縮されたため、国道56号沿道の各市町村からの広域的なアクセス性が向上した。</p> <p>(8)高知港へのアクセス向上 春野拡幅事業により、土佐市、春野町及び高知西南地域から高知市までの所要時間が短縮され、重要港湾である高知港までのアクセス性が向上している。</p> <p>(9)農林水産品の流通の利便性向上 春野拡幅事業により、土佐市、春野町及び高知西南地域から高知市までの所要時間が短縮され、高知中央卸売市場へのアクセス性が向上した。</p>

道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知152	国土交通省四国地方整備局編「一般国道56号春野拡幅(事後評価)」(平成18年度第1回事業評価監視委員会資料、2006年)、16-26頁	<p>国道56号春野拡幅の事業効果</p> <p>(10)高知市～須崎市のアクセス向上 春野拡幅事業により、高知市から須崎市までの所要時間が4分短縮され、国道56号沿道の各市町村からの広域的なアクセス性が向上した。</p> <p>(11)中央地方都市圏中心都市へのアクセス向上 春野拡幅事業により、土佐市、春野町といった中央地方生活圏南西部の市町村から日常生活圏中心都市である高知市内への所要時間が短縮され、地域間の交流が促進されるとともに、地域住民のアクセス性が向上した。また、中心都市である高知市までの通勤可能範囲が拡大することにより、中央生活圏南西部における定住促進など、地域活力の向上が期待される。</p> <p>(12)大規模イベントを支援 平成14年に「よさこい高知国体」が開催され、春野町の春野総合運動公園は秋季大会の開会式会場、陸上競技場等として活用された。また、春野総合運動公園は、プロ野球・Jリーグのキャンプや四国アイランドリーグ公式戦などの多くのイベントが行われていることもあり、利用者数は年々増加傾向にある。</p> <p>(13)主要な観光地へのアクセス向上 高幡地方生活圏及び幡多地方生活圏の観光地は、アクセス性が低く、観光客数は伸び悩んでいたが、春野拡幅事業及び土佐市バイパス整備などの一般道路事業や、高知自動車道の西伸による各観光地へのアクセス性の向上により、観光客は増加傾向にある。</p> <p>(14)歩行者・自転車の快適性・安全性の向上 春野拡幅事業により全区間において幅員3.5m程度の歩行者自転車道が整備されたことにより、歩行者・自転車の事故件数は減少傾向にあり、歩行者・自転車の快適性・安全性は著しく向上した。</p> <p>(15)第三次医療施設へのアクセス向上 春野拡幅事業により土佐市等から高知赤十字病院及び高知医療センターへの所要時間が3分短縮された。</p> <p>(16)交通事故件数の減少 春野拡幅事業による歩行者・自転車道の設置及び線形改良により、平成11年度の部分供用後においては交通事故件数は減少に転じ、平成16年ではピーク時の約半数となっており、国道56号の安全性が向上した。</p> <p>(18)NO<sub>2</sub>・SPM排出量の削減 春野拡幅事業により、旅行速度が向上することから、NO<sub>2</sub>(二酸化窒素)排出量が29%、SPM(浮遊粒子状物質)排出量が23%削減される。</p>

道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知206	国土交通省四国地方整備局編「一般国道56号須崎道路(事後評価)」(平成25年度第5回事業評価監視委員会資料、2014年)、4-6頁	<p>国道56号須崎道路の事業効果</p> <p>(1)時間短縮による広域連携の強化                      須崎道路等の高速道路網整備により、須崎市から高知市までの所要時間は約2/3に時間短縮された。                      須崎市と中土佐町から高知市内の第三次医療施設への救急搬送件数は近年増加傾向。医療施設までの搬送時間短縮は、命の道として救急医療活動に貢献している。                      高速道路網整備を受けて須崎市で始まったイベント(新子まつり)では来場者数が増加するなど、地域の観光振興にも貢献している。</p> <p>(2)地域開発の支援                      須崎道路の整備に合わせ、桐間地区において新市街地開発(土地区画整理事業(25ha)及び民間による土地開発(9ha))が実施された。開発地区においては、市街地とのアクセス性向上や高速道路との直結効果もあり、現在までに17の商業施設等が進出しており、雇用者数が増加するなど、地域開発を支援している。</p> <p>(3)交通事故件数が半減                      須崎道路整備前の旧国道56号(現県道388号)では、慢性的な交通渋滞の発生や事故の多発が課題であった。須崎道路整備後は交通の転換が進み、旧国道56号の交通量が約1/3に減少し、慢性的な交通渋滞が解消されるとともに、須崎道路と合計しても交通事故が半減するなど、沿線道路利用者の利便性・安全性が向上している。</p>
高知281	国土交通省四国地方整備局編「四国横断自動車道阿南四万十線・一般国道56号中土佐インター関連(事後評価)」(平成27年度第3回事業評価監視委員会資料、2015年)、4-7頁	<p>四国横断自動車道須崎新荘～窪川間及び国道56号中土佐インター関連の事業効果</p> <p>(1)交通の転換及び交通量の増加                      四国横断自動車道の開通により、最大9割の交通が高速道路に転換、高知県中心部と西南地域を結ぶ大動脈として機能。国道56号とあわせた交通量は、最大で平日約1割、休日約2割増加。広域的な交流を支援。</p> <p>(2)交通の難所回避による安全性・快適性の向上                      四国横断自動車道の開通により、高知県西南地域最大の交通難所”久礼坂”「魔の坂」を回避。旧カーブ29箇所の回避と大幅な交通の転換により、交通事故件数が8割減少。安全・安心で快適なドライブを支援。</p> <p>(3)ダブルネットワークによる信頼性の向上                      四国横断自動車道の開通により、国道56号とのダブルネットワークが形成され、災害や交通事故による通行止め発生時の代替路として機能。また、津波避難場所としての機能も有するなど道路としての信頼性が向上。</p> <p>(4)救急医療に対する安心の向上                      四国横断自動車道の開通により、救急医療施設への搬送時間が短縮。より早期に高度医療を受けることが可能となった。また、久礼坂の急カーブ区間の回避により、患者の負担軽減や車内での応急処置が容易になった。</p>

道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知281	国土交通省四国地方整備局編「四国横断自動車道阿南四万十線・一般国道56号中土佐インター関連(事後評価)」(平成27年度第3回事業評価監視委員会資料、2015年)、8-11頁	<p>四国横断自動車道須崎新荘～窪川間及び国道56号中土佐インター関連の波及効果</p> <p>(1)広域交流の促進による地域活性化を支援                      四国横断自動車道の開通につれ、黒潮町への県内外からのスポーツ合宿者数は約8倍に増加し、宿泊やお弁当による収入も約10倍に増加。                      合宿参加者は、西日本各地に広がり、スポーツを通じた広域の観光交流の促進による地域活性化を支援。</p> <p>(2)特産品の流通を支援                      四国横断自動車道の開通につれ、地域の特産品である「ひのき」や「養殖マダイ」の生産量や出荷量が増加。                      アクセス向上による特産品の流通拡大により、高知県西南地域の主要産業である農林水産業を支援。</p> <p>(3)地域の新たな取り組みを支援                      四国横断自動車道の開通を契機に四万十町では、主要産業である第一次産業の拠点として、県内最大級のトマトの生産施設や四万十町産豚の加工場、販売施設などの整備を進め、生産量の増や販路拡大、地域雇用の拡大などを図っている。</p> <p>(4)移住促進のための取組を支援                      四国横断自動車道の開通を契機に四万十町では、移住促進のための取組を本格的に実施。これまでに高知県内外より99名の方が移住。若い方の移住が多く、地域の活性化にも繋がっている。</p>
高知323	黒潮町史編さん委員会編「黒潮町史」(黒潮町、2017年)、425頁	<p>国道五六号の佐賀改良</p> <p>佐賀町佐賀の市街地を通る国道五六号は、長い間、道路の道筋が未改良で幅員も狭く、歩道の整備が不十分であった。このため、歩行者や自転車の通行に支障があり、危険な状態が続いていた。住民の安全・安心な活動環境づくりと町の活性化を図るため、国道五六号佐賀改良工事が行われた。工事完成により、佐賀市街地の交通環境は大きく改善された。</p>

道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知337	国土交通省四国地方整備局編「一般国道56号土佐道路(事後評価)」(平成28年度第4回事業評価監視委員会資料、2017年)、5-9頁	<p>国道56号土佐道路の事業効果</p> <p>(1)交通混雑の緩和 土佐道路完成4車線化(一部6車線)の整備に伴い、土佐道路や県道梅ノ辻朝倉線では慢性的な混雑が緩和。</p> <p>(2)交差点における交通渋滞の緩和 棧橋通3丁目交差点では、6車線化に伴い、交差点の交通容量が拡大、交差点各方向の最大滞留長が減少。 交通渋滞が緩和し、石立交差点～中宝永町交差点間の所要時間が約6分短縮。</p> <p>(3)安全性の向上 土佐道路の完成4車線化(一部6車線)の整備に伴い、土佐道路の事故件数は4割減少。 潮江地区生活道路への流入交通量も減少し、地区内の事故は半減。</p> <p>国道56号土佐道路による波及効果</p> <p>(1)地域づくりを支援 潮江地区では、土佐道路1工区の整備にあわせて、「みち再生事業(高知県)」「潮江西部土地区画整理事業(高知市)」が実施され、みちとまちが新しく整備。 道路整備とまちづくりを効率的に実施し、若年層の人口増加など魅力ある地域づくりを支援。</p> <p>(2)緊急時避難の支援 高知市及び潮江地区の自主防災組織により策定された「津波避難計画」において、土佐道路は潮江地区から筆山方面への地震・津波災害時の避難経路に指定され、沿線20箇所に津波ハザードシートを設置。</p>

道路42 国道56号の二次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知354	国土交通省四国地方整備局編「一般国道56号土佐市バイパス(事後評価)」(令和元年度第2回事業評価監視委員会資料、2019年)、5-11頁	<p>国道56号土佐市バイパスの事業効果</p> <p>(1)交通混雑の緩和 土佐市バイパスの段階的な供用により、周辺部の渋滞が大幅に緩和。完成供用により事業区間の所要時間が上り線で29分(8割)短縮。</p> <p>(2)安心・安全の向上 歩道未整備区間に両側歩道を整備することで、歩行者等が安全に移動できる空間を確保。土佐市バイパスの完成により、小学校周辺の道路の交通量が減り、児童の交通安全面が向上。</p> <p>(3)地域連携・救急医療に貢献 地域の人口減少が進む中、都市間の機能分担及び連携が促進され地域の魅力に貢献。土佐市は、医療施設の充実した高知市内の病院への救急搬送が増加しており、バイパス整備により、搬送時間が短縮、傷病者への負担を軽減。</p> <p>(4)紙産業の支援 土佐市バイパスは、周辺に立地する紙産業関連企業の工場間輸送、業務移動に利用され、供用前に比べ、所要時間が大きく短縮し、安全性・確実性が向上。土佐市バイパスの4車線整備以降、紙製品の出荷額は増加傾向にあり、土佐市の地域経済を支えている。</p> <p>(5)農業の支援 土佐市の基幹産業である農業の生産品出荷にバイパスが利用され、地域産業活動に貢献。土佐市バイパス整備で慢性的な渋滞が解消し、集出荷場へのアクセス向上により農産物の集出荷効率が向上。</p> <p>国道56号土佐市バイパスによる波及効果</p> <p>(1)地域のにぎわい創出 土佐市バイパスの整備に伴い、沿線地区の店舗数、商品販売額は増加傾向。土佐市バイパス周辺には地場産品の直販所などもオープンしている。</p> <p>(2)イベントの活性化 土佐市バイパスの整備により、市街地を南北に貫く県道土佐伊野線の交通を土佐市バイパスに迂回させることが可能となったため、毎年8月開催の大綱まつりの開催場所が、H16年より広い会場に変更され新たな催しが可能となった。</p>